

5月29日（高校総体壮行式激励のことば）

高総体に敗者はいない

先日、福祉科開科式典で講演をいただいた文部科学省の矢幅先生からメールをいただきました。こういう書き出しでした。「**口加高の福祉科開科式、とても良かったです。何よりも生徒たちが素晴らしかったです。今時の高校生を少し色眼鏡で見ている自分が恥ずかしくなりました。とても純粋で素直な子供たち・・・素晴らしい生徒たちに会うことができ、楽しいひと時でした。**」

長崎県にある56の県立高校の中で、今、最も注目をされている学校は、実は口加高校です。では何が注目されているのか。それは生徒です。みなさんが注目されているということです。生徒たちの姿を見たいということで、先週金曜日、長崎県教育員会の教育長をはじめ数名の方々が本校を2時間ほど視察されました。授業参観と生徒たちと交流をしたいといご要望があり、山本迅君の進行で、それぞれの学科・コースに所属する生徒がプレゼンをしてくれました。プレゼンを聞いた皆さんが絶賛されていました。「長崎県が口加高校生へ期待を寄せています」とか「注目しています」というお言葉を口々におっしゃいました。まさに今、みんなは多くの注目と期待を集め、上昇気流に乗って高総体を迎えることができます。口加高校生として誇り高くプレーし、口加高校生として誇り高く応援してください。堂々と胸を張って、自信を漲らせて、グラウンドに、コートに、スタートラインに立ってください。

高総体は体育部に所属している人や試合に出る人のためだけにあるわけではありません。放送部や新聞・文芸部のように取材する人、応援バスに乗って試合会場に駆けつけて応援をする人、保護者の皆さん、そして先生方。選手の皆さんのバックには、多くの応援者がいることを胸に留めておいてください。会場はそれぞれ違いますが、オール口加で戦いに挑みましょう。

さて、今年3月の卒業式で、卒業生代表としてソフトボール部キャプテンの荒木瑞姫さんが答辞を読みました。彼女はその中でこう述べました。

「私は、ソフトボール部の主将を務めていました。辛い事も共に乗り越え、同じ目標に向かい、共に走り続けた仲間。私たちの勝って喜ぶ姿が見たいと、同じ目線に立ってご指導くださった顧問の先生方、どんなに負け続けても応援して下さった保護者の方々、本当にありがとうございました。私は部活動を通して、「諦めない」ことの大切さを学びました。部員が足りなくても、どんなに負け続けても諦めずに目標に向かって進み続けると、夢は叶うということを感じました。うまくいわずに壁にぶつかることがあったとしても、この顔晴りは無駄にはならないと信じて、諦めずに乗り越えていきたいと思えます。」

昨年のソフトボール部は壱岐高校に初戦で破れましたが、高総体にはさまざまな勝者がいます。例えば仲間と共に最後まで諦めず戦い抜いた人、自己ベストが出せた人、戦い終えてこれまでの3年間を仲間とたたえ合う人、部活動を通して人として成長した人・・・試合の勝敗を越えて、様々な宝物を手に入れることができた人は皆、勝者です。それぞれの宝物を持ち帰ってください。

最後に、各部活動のキャプテンから共に顔晴ってきた仲間へのメッセージの一部をみんなに伝えたいと思います。全ては紹介できませんが、全てのキャプテンも人知れず悩み、苦しんできたことがよく分かりました。ことばはそれぞれ違いますが伝えたい思いはみな同じだと思っています。

○足りないところも多く、沢山いろんなことを言ったりしたかもしれないけど、今までついてきてくれてありがとう。みんなすっごく大好きです。

○こんなにはっきりしないうるさいキャプテンによくついてきてくれて本当に感謝。皆に何度も救われまくったキャプテンでした。悔しくて苦しんだ分、最後はみんなで笑って笑いまくろう！！

○前年度3人という少ない部員数でしたが、1年生が入り6人で活動できることに感謝を伝えたいです。

○今まで1年間、僕についてきてくれてありがとう。何度か衝突することがあったけど、このチームで3年間できたことが一番の思い出です。

○自分はケガが多くチームにもたくさん迷惑をかけることもあったけど、みんなが助けてくれたからチームが一つにまとまりました。

○部長らしくなく、頼りなく、時にはきつく当たってしまって辛い思いとかさせてしまったけれど、今までついてきてくれてありがとう。

○ここまでこれたのも、みんなの助けと、こんな頼りないキャプテンについてきてくれたおかげだと感謝しています。

○毎日頼りないキャプテンについて来てくれてとても感謝しています。沢山の思い出をありがとう。このチームでよかったと心の底から思います。

○部員全員が一番の宝物です。と書いたキャプテンもいました。そして、仲間へのメッセージをこう締めくくったキャプテンもいました。

○暑い夏も凍える寒さの冬も雨の日も支え合い、練習に励んできました。三年生は最後の高総体を悔し涙ではなく、嬉し涙で終わり、ここまでがんばってきた自分自身をそれぞれほめて欲しいです。

陸上競技部キャプテンの渡辺恵さんと森北詩音さんが書いていた次ことばを最後に贈ります。

“十代に限界はない” “十代の可能性には限界はない”

仲間という一番の宝物と、伸び伸びと躍動してください。顔晴ろう！ □加！！